

越前海岸漁村集落住民の生活環境評価に関する分析

福井大学工学部 正会員 李 偉国
 福井大学工学部 正会員 川上洋司
 鯖江市役所 高橋弘子

1. 研究の背景・目的

広大な沿岸域を抱える我が国にとって、漁村集落は国民生活空間の重要な一部と位置づけられ、これまで漁港・集落整備に伴い、周辺とのアクセス道路や活性化のための各種施設整備等がなされてきた。しかしながら、漁業離れの中で過疎化は依然として進展しつつあり、生活の場としての存続すら危ぶまれている集落も多い。こうした現状に対して、21 世紀の国土のグランドデザインでは、都市とは違った生活様式を可能とする国土のフロンティアとしての位置づけがなされ、新たな取り組みの必要性が提唱されている。

本研究は、福井県越前海岸における漁村集落を対象とし、住民アンケート調査にもとづき、生活環境の「現状」及び「変容」に対する評価、定住・転出意向とその背景、集落の将来像・意見・要望等を把握・分析し、今後の漁村集落整備のあり方を検討するための基礎的知見を得ることを目的とする。

2. アンケート調査の概要

越前海岸集落における 2 つの中学校全生徒の世帯に対して調査票 280 票（世帯ベース）を配布した。有効回答数は世帯票 242、個人票（成人 420、中学生 242）である。

3. 生活環境の「現状」と「変容」の評価

漁村集落における生活環境に関して、図 - 1 のように 5 つの視点により計 13 の設問項目を設定し、それぞれの項目について「現状」は 5 段階、「変容」（10 年以前との比較）は 3 段階で回答を得た。回答結果を得点化し、両者の項目別平均得点をプロットしたのが図 - 2 である。

評価結果をみると、全体的に厳しい評価をしており、「現状」に対する満足の評価は「近所付き合い」のみである。海岸に沿った国道 305 号線、堤防等のインフラ整備が進んだことにより、「日常の買い物の便」や、「交通・災害への対応」などの面においては、現状評価は依然として高くはないが、従前に対して改善されたとの評価がなされている。逆に「自然環境」に関しては「現状」の評価はそれほど低くはないが、変容においての評価が非常に厳しいことから、生活利便性の改善と自然環境の悪化とのトレードオフ的関係を読み取ることが出来る。

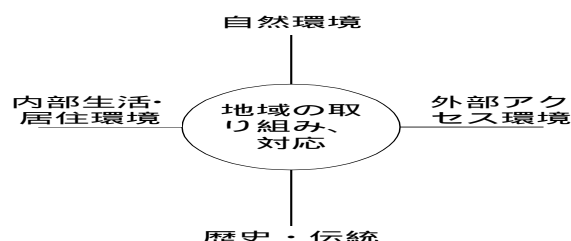


図 - 1 環境評価の視点

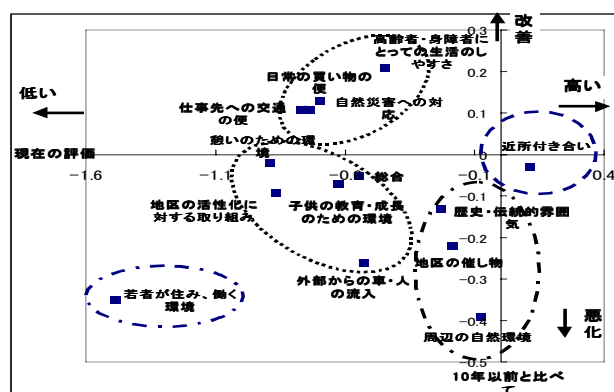


図 - 2 環境の現状と変容に関する評価

表 - 1 社会個人属性と生活環境評価の関係

生活環境評価項目 社会個人属性		近所 付き合い	買い 物の 便	若者が 住み、働 く環境	地区活 性化への 取り組み	仕事先 への交 通の便
年齢層	大人					
	中学生					
就業 有無別	就業者					
	無就業者					
仕事 先別	海岸集落					
	その他					
居住 歴別	～15年(短)					
	15年～(長)					

注) ハッチはカテゴリ間で評価が高いものを示す

キーワード：漁村集落、意識調査・分析

連絡先：福井大学工学部建築建設工学科，TEL & FAX: 0776 - 27 - 8608，Email: yoji@anc.anc-d.fukui-u.ac.jp

一方、現状・変容ともに低く評価されている項目では、「若者が住み、働く環境」が際立っており、その他「教育環境」、「外部からの車の流入」等が挙げられる。

なお、個人属性間で「現状」評価において差がみられたものは表 - 1 に示す通りである。

4. 定住継続意向と現状評価の関係

定住継続意向に関しては、「わからない」を除き、「住み続けたい」、「住み続けざるを得ない」、「転出したい」はそれぞれ 31%、47%、22%となっており、それぞれの意向の主な理由は「住み慣れている」、「家が代々続いている」、「交通の便が悪い」である。

定住継続意向を属性別にみると、表 - 2 に示すように、海岸集落内に就業し、出生以来住み続けているといった、集落と強いつながりを持っている層が「定住」意向を示している。また、海岸集落以外に就業し、居住歴の短い新住民が、愛着度の少なさ、交通の不便さ等を理由に「転出」意向を示していることがわかる。

「定住意向」と「生活環境評価」との関係を探るため、定住継続意向の程度を外的基準、生活環境評価項目をアイテムとして数量化 類分析を適応した結果は表 - 3 のとおりである。相関比は 0.27 と高くないが、「仕事先への交通の便」、「近所付き合い」のレンジが他のアイテムより遥かに高くなっており、人間関係(近所づきあい)のわずらわしさ、交通の便に対する不満が転出意向に結びついていることがわかる。

5. 集落の将来像・意見・要望

将来像では、定住意向が強い人は「自然」「伝統」が残っている集落、つまり現状の持つ固有の価値の「存続」を、転出意向が強い人は「利便性の高い日常生活」が得られる集落、つまり「改善」を強く望んでいる傾向が見られ、集落への愛着志向、利便性志向、それぞれの価値観をはっきりと示す結果となっている。

また、図 - 1 の五つの視点に対応し、意見・要望に書かれているフリーアンサーからキーワードにより抽出・まとめたものが表 - 4 である。集落住民の中には自然環境面で好きなこと・もの・場所が依然として多く存在している一方、内部生活環境や自然環境の変化に対する不満の指摘も多くみられる。特に外部アクセス環境や現状の取り組み・対応に対しては不満の指摘のみという結果となっている。

6. おわりに

本研究は、越前海岸漁村集落を対象に生活環境評価、定住継続意向、集落の将来像等に焦点を当て住民意識の把握・分析を行なった。「自然環境の保全・回復」「交通の利便」「働く環境の提供・改善」を住民が強く望んでいること、また「交通の便」「近所付き合い」等に対する評価の違いが定住継続意向に影響していること等を明らかにした。そして、その分析を通して、現状の漁村集落内部には、集落固有の価値の存続を前提とした「保全」指向層と、利便性を求める「改善」指向層とが並存していることが明確に示された。このことは、生活環境の「現状」、「変容」評価や「定住意向」の程度にはっきりと表れており、漁村集落に限ったことではないかもしれないが、今後の集落整備において留意すべき極めて重要な点と思われる。

表 - 2 社会個人属性と定住継続意向の関係

属性	定住継続意向 「住み続けたい」「住み 続けざるを得ない」	「転出したい」
就業有無	就業者	無就業者
仕事先別	海岸集落	その他
居住歴	15年～(長)	～15年(短)

表 - 3 定住継続意向と現状評価の関係

アイテム	カテゴリ	スコア	転出	定住	レンジ	順位
周辺の自然環境	満足・普通:1 不満:2	-0.02 0.04			0.06	12
歴史・伝統的雰囲気	満足・普通:1 不満:2	0.03 -0.07			0.10	9
地区の催し物	満足・普通:1 不満:2	0.02 -0.05			0.07	10
近所付き合い	満足・普通:1 不満:2	0.11 -1.05			1.16	2
日常の買い物の便	満足・普通:1 不満:2	0.24 -0.22			0.46	3
憩いのための環境	満足・普通:1 不満:2	0.11 -0.06			0.17	7
外部からの車・人の流入	満足・普通:1 不満:2	-0.17 0.17			0.34	4
若者が住み、働く環境	満足・普通:1 不満:2	-0.07 0.01			0.08	11
地区の活性化に対する 取り組み	満足・普通:1 不満:2	0.11 -0.08			0.19	6
高齢者・身障者にとって の生活のしやすさ	満足・普通:1 不満:2	0.14 -0.20			0.34	4
仕事先への交通の便	満足・普通:1 不満:2	0.74 -0.50			1.24	1
自然災害への対応	満足・普通:1 不満:2	0.06 -0.04			0.10	8
子供の教育・成長のため の環境	満足・普通:1 不満:2	-0.02 0.03			0.05	13

表 - 4 フリーアンサーによる指摘数

	好きなこと・もの・場所	嫌いな(不満)こと・もの・場所	意見・要望
自然環境	127	98	11
歴史・伝統	14	11	2
内部生活・居住環境	84	115	56
外部アクセス環境	0	91	42
取り組み・対応	0	51	18
合計	297	366	129